

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年1月5日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
1	音楽施設は不要。予算を若年・子育て世帯住み替え助成金に回してほしい。	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいており、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところでございます。 本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年1月16日
2	市民生活が困窮化している中で、多額の市税を使って音楽ホールを整備する必要があるのか。市内の他施設の稼働率も高くない状況で元が取れるのか。財政健全化を公約に掲げているのであれば、市民がより必要としている支援をよく聞いてほしい。		
3	生活がひっ迫しているなかで、さらに税負担を負わせて整備を進めることは到底納得できない。		
4	多額の費用をかけてホールを作るより物価高対策を優先すべき。		
5	巨額の税金の無駄遣いであり計画に断固反対。本当に必要なところに必要な支援を。		
6	音楽ホールより子どもの室内遊び場をもっと整備してほしい。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 とりわけ、乳幼児を含むこどもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを展開することを計画しています。	令和8年1月16日
7	どれくらいの経済波及効果を見込んでいるのか。たった2000人規模の音楽ホールは年に何回使うのか。 複合施設を整備するのであれば、5大ドームに並ぶ東北のドーム建設を希望する。	本施設では、毎年の施設運営・事業展開によって年間約54万人、約47億円の経済波及効果が見込まれると推計したところです。さらに、魅力的なコンテンツの創出や青葉山エリアの様々な資源と連携したエリア全体の魅力向上、建築の魅力の発信などの取組みにより、これにとどまらない地域活性化や交流人口・関係人口拡大の効果をもたらすことを目指してまいります。	令和8年1月16日
8	建設費が高騰するなかで整備を進めることに納得できない。建設費に対する収益も少ない。経済波及効果は県民によるものが中心で、県外や外国人によるもののは少ない。また検証にあたっては専門家の意見と市民の意見を取り入れてほしい。中途半端なホールを整備するなら、コンサートなどで多目的で多くの人を収容する大きなドームを建設してほしい。	また、仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められてきました。 ドームで行われる規模のコンサートとは別に、ホールを会場とするコンサートや舞台芸術公演のニーズは多岐にわたり、「仙台市内で会場が取れずイベントを実施できない」というお声を多く頂戴しているところでございます。令和2年に行なったホールの需要想定調査においても、十分な需要が見込めることを確認しております。 引き続き、市民の皆様や専門家の意見を伺うとともに、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら、整備を進めてまいります。	
9	多額の費用を音楽ホール建設に充てるより、中心市街地の活性化や子ども・若者向け施策、物価高対策に予算を使うべき。また、音楽ホールはすでに複数施設がある中で採算が取れるのか。既存施設の老朽化が問題なのであれば改修すればよい。ドームを作り、大物アーティストがライブをすれば経済効果も大きいので、ドームを作ってほしい。	多額の費用を音楽ホール建設に充てるより、中心市街地の活性化や子ども・若者向け施策、物価高対策に予算を使うべき。また、音楽ホールはすでに複数施設がある中で採算が取れるのか。既存施設の老朽化が問題なのであれば改修すればよい。ドームを作り、大物アーティストがライブをすれば経済効果も大きいので、ドームを作ってほしい。	
10	建設を止めて欲しい。音楽堂も震災遺構伝承もなぜ必要なのか。箱物を創つて建設需要を増やすためだけに莫大な市民税を使わないで欲しい。その後の維持コストも馬鹿にならない。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 中心部震災メモリアル拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年1月16日
11	多額の税金を使って複合施設の整備は不要。また、災害メモリアル拠点も市内複数個所に存在しており、新たに整備すると維持費もかさむ。市民に有益な税金の使い道を考えてほしい。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を決めました。沿岸部の拠点として、せんせい3.11メモリアル交流館や震災復興荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ、内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。沿岸部と中心部の2拠点体制を活かしつつ、文化芸術と連携した防災力向上の取組などを検討し、次の災害に備え、乗り越える文化の醸成に努めてまいります。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	令和8年1月16日
12	市民ワークショップは平日の昼間開催と聞いており、高齢者や障害のある市民など、多様な市民意見を集める場、対話する場を設けて欲しい。	令和7年6月から8月の土日祝日の日中に市民ワークショップを開催し、小学生から高齢者までご参加いただいたところです。 中間案を公表した令和7年11月以降、市民活動団体や障害者団体の方との意見交換の場を設け、本施設に関するご意見を伺ってきているところであります。今後も機会を捉えて、多くの方の意見を伺ってまいります。	令和8年1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年1月5日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
13	<ul style="list-style-type: none"> ・設計者選定時の案からの変更点として大ホールが独立した配置となり、複合施設としての目的や藤本氏が企画した開かれた広場というコンセプトから離れていくように思われる。大ホールホワイエはロビーと連続した形とし、有料コンサート開催時のオペレーションには可動壁やロープ等で対応可能ではないか。現状案の大ホールのホワイエは狭苦しく、トイレの行列で埋まりかねない。東京文化会館のように広いロビーで歓談と交流が広がるよう、工夫をしてほしい。 ・1階の大ホールのトイレは男女ともホール北側(ステージ上手)に配置されているが、ホールの上手側にも設置してほしい。もしくは今の男性トイレを必要に応じて女性用に開放できるよう通路や可動壁を設けてほしい。その代わり男性用はロビーにあるトイレを拡充しロビーに人を誘導してはどうか。行列なしのトイレを目指してほしい。 ・食事のできる「レストラン」ではなくて居心地の良いサードプレイスとしてのカフェが必要である。多賀城市立図書館に併設されているスター・バックスを見ても集客力は絶大だ。設計段階から同社と協働し新しいスタイルの店舗の展開も含めて検討すべき。 ・クローケーに要する人手を考えるのであれば、衣服を入れられるタイプの無料コインロッカーの方が利用が多いのではないか。 	<p>大ホールホワイエとロビーにつきましては、公演を主催される方々より、公演時のセキュリティ等の観点から固定の柵または壁で明確に区切ることを望む声をいただいているところございます。</p> <p>トイレの混雑軽減の視点は重要であると認識しており、このことを含めホワイエ内がより快適な場所となるよう、空間のあり方や機能配置について引き続き検討を行ってまいります。</p> <p>また、カフェ、クローケーのあり方につきましても、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>	令和8年 1月16日
14	学生時代、施設職員が特別にペルリンフィルのリハーサルの見学と、当日券を安価に販売してくれて感銘を受けた。このホールも日常的に人の居場所となるような良質な現代建築になると良い。	いただいたご意見を参考に、多くの方が気軽に訪れる施設、未来を担う若い世代を育む施設を目指し、運営や事業のあり方の検討を進めてまいります。	令和8年 1月16日
15	仙台駅前の旧さくらの百貨店の跡地活用、こどものための施設を整備するよりも先に音楽ホールを整備する理由がわからない。ホールを整備するのであれば、楽天球場をドームにするほうが良い。	<p>仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。ドームで行われる規模のコンサートとは別に、ホールを会場とするコンサートや舞台芸術公演のニーズは多岐にわたり、「仙台市内で会場が取れずイベントを実施できない」というお声を多く頂戴しているところでございます。令和2年に行なったホールの需要想定調査においても、十分な需要が見込ることを確認しております。</p> <p>なお、こどものための施設をいたしましては、西公園への屋内遊び場の整備に向け基本計画の策定を進めているほか、本施設においても乳幼児を含むこどもたちや若い世代が文化芸術や災害文化に触れ、感性や創造性を育む機会を創出することを重視し、多様なプログラムを開発することを計画しています。</p>	令和8年 1月16日
16	複合施設整備よりも、自然環境保護、熊対策、メガソーラー中止のためには予算を優先して使うべき	本市では長年にわたり2,000席規模の音楽ホールの整備を望む声を多くの方からいただいているおり、東日本大震災後には、1万人近くの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。こうした状況を踏まえ、これまでパブリックコメントを実施するなど幅広くご意見を伺いながら、基本構想および基本計画を策定したところございます。	令和8年 1月16日
17	建設に反対。一部の市民の希望を叶えるために巨額の予算を使い、箱物を作るのはやめてほしい。市民にいったいいくらの借金を背負わせるつもりなのか。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。	
18	建設費が高騰している現在において子どもたちに負債を残す整備はやめてほしい。それよりも物価高対策や減税対策など、困窮者対策の方が優先度が高い。	事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	
19	これ以上の新たな施設整備は不要である。整備費用があるのであれば、光のページェントの点灯時間を早めたり、青葉通りにページェントを復活した方が市民は喜び、集客も伸び、仙台は活性化するのではないか。		
20	市民説明会において質疑応答の時間が不十分だった。質疑応答中心の市民説明会を再度開催すべき	<p>市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきましては、隨時、市の考え方を回答してまいります。</p> <p>また、今後につきましても、市民の皆様からのご意見を直接伺う多様な機会を設けてまいります。</p>	令和8年 1月16日
21	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ワークショップの取り組みは評価するが、本来は施設計画ではなく事業運営計画のために活かされるべき活動だ。将来の事業運営に携わる組織が責任をもって関わり、きちんとティクレッシュしないとい、ただの一過性の雰囲気作りで終わってしまう、事業についての検討結果を施設計画に反映し、施設計画での知見を将来の運営に反映できるよう、組織づくりを急いでほしい。 ・災害文化の創造と発信のためには、もっと層の厚い事業を体系的に展開しそれを言語化していくと同時に、伝承とアーカイブという「根の部分」をしっかりと蓄積していくこと、そのためにには、災害文化をきちんと言語化でき、かつ地道な蓄積と将来を見据えた発信力を支える専門家の専従が不可欠である。 また、「根の部分」のための作業環境、例えば被災物を扱う調査保管や搬出入ルートがきちんと想定できているか配だ。 ・災害文化の発信が押し付けて捉えられないよう空間的な配慮を検討することも必要だ。 ・2000人のキャパを減らしてもパイプオルガンは必要。パイプオルガンの莊厳さは、震災メモリアルにふさわしいシンボルとして大きく貢献するのではないか。 	<p>市民ワークショップでいただいたご意見は、施設計画だけでなく、開館後の事業展開にも生かしてまいりたいと考えております。指定管理者となる団体の選定は今後進めてまいりますが、選定後は指定管理者と共に管理運営に関して検討を進めてまいります。</p> <p>災害文化の創造と発信にあたっては、中心部拠点にかかるこれまでの検討や今回いただいたご指摘も踏まえ、専門家をはじめ多様な方々のご意見を伺いながら、事業や運営のあり方等を検討してまいります。</p> <p>本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する優れた音響性能を持ち、高く評価されるホールの実現を目指してまいります。</p>	令和8年 1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年1月5日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後隨時更新いたします。

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
22	<ul style="list-style-type: none"> ・中途半端な場所に、中途半端な規模・使用目的の施設は不要。 ・震災を語り継ぐためには、被災した場所で行い、現地に足を運んでもらって感じてもらうことが大切だ。メモリアル拠点を作っても心は動かされない。 ・コンサートができる収容人数ではないため、整備費に対して見込める収益は見合わない。市内各所にホールがすでにあるため、既存施設を快適化させることがコストパフォーマンスの観点からも推奨される。 	<p>伊達政宗公が仙台城を構えた「仙台はじまりの地」と言える青葉山エリアは、豊かな自然に恵まれるとともに文化、歴史、学術資源が集積し、本市のアイデンティティを象徴的に示す場所です。この場所に本施設が立地することにより、エリアとして国内外から多くの人を惹きつける求心力となり、仙台の魅力や発信力の向上に貢献できるものと考えております。また、都心部にも隣接し、大きな経済波及効果を創出できるものと考えております。</p> <p>震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんせい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。沿岸部と中心部の2拠点体制を活かしつつ、文化芸術と連携した防災力向上の取組などを検討し、次の災害に備え、乗り越える文化の醸成に努めてまいります。</p> <p>また、仙台市内には、これまで大編成のオーケストラ公演、さらにそれに合唱が伴った大型公演などに適した施設がなく、このような公演を可能とする舞台設備と優れた音響性能を有する2,000席規模の大型ホールが長年求められておりました。</p> <p>令和2年に行ったホールの需要想定調査において、十分な需要が見込めることを確認しております。</p>	令和8年1月16日
23	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県県民会館が2000人規模の劇場型ホールになる計画であることを前提にすると、「舞台は可動式でなく、サラウンド型固定とすべき」で「客席は1500人以下とすべき」 ・宮城県県民会館が、舞台芸術にも適した劇場型のホールになるのであれば、仙台市の新ホールはクラシックに特化したサラウンド型単機能のホールとして、建設費の低減を図るべき ・藤本氏は説明会中に「講演」という用途にも言及していたが、音響の豊かな音楽ホールで、残響が多いと聞き取りにくくなる講演を実施するのか。どうしても2000人を入れたい講演ならサンプラザもあり、新ホールが対応する必要はない。 ・吹奏楽や合唱コンクールにも言及していたが、それらも含め、2000人規模のコンサートは、新宮城県県民会館で開けばよいのであり、2つは絶対に必要ない。仙台で最高レベルのクラシック音楽が演奏されるコンサートの集客は、1000人以上1500人未満がボリュームゾーンだ。 ・今后、市民会館、県民会館、電力ホールがなくなってしまうと、仙台市内には、使い勝手の良い1000～1500人規模のホールがイズミティ大と川内萩ホールのみとなってしまいます。いずれも、音響のよいホールとは言いくことから1500人規模の音楽ホールが望ましい。 	<p>東日本大震災後、生の音の音響性能に優れた2,000席規模のホールの整備について、1万人近くの市民の皆様からの署名や地元経済界からの要望を頂戴いたしました。</p> <p>また、多くの文化芸術団体・公演主催者より「仙台市内でホール施設の予約を取れない」「2,000席規模で十分な舞台機能を有するホールがないことから、仙台で開催できない大会や公演がある」とのお声をいただいております。一方で、仙台市民会館(1973年開館)は老朽化が進み、本複合施設開館後は施設の更新を行わない方針しております。</p> <p>新県民会館には、高い稼働率である現県民会館の需要の大多数が移行するものと見込まれ、市民会館で受け止めてきた需要やこれまで仙台で開催できなかった公演の需要などが加わった場合、一館のみで全てを受け止めることは難しく、県市双方で実施した需要想定調査においても、「それぞれが2,000席規模のホールを整備しても供給過剰とならない」という結果を得ております。</p> <p>こうした需要面の視点に加え、本複合施設は仙台の文化芸術の振興を総合的に推進する拠点を目指しており、多くの市民の皆様に多様な文化芸術の創造や体験の機会を提供するため、コンサートホール形式とプロセニアム劇場機能に転換可能なホールとしているものでございます。</p> <p>世界的な実績を持つ音響設計会社によるコンサルティングのもと生の音源に対する優れた音響性能を持つホールを実現することで、新県民会館との役割分担をしながら、仙台の文化芸術の発展を目指してまいります。</p> <p>なお、「講演」での利用につきましては、青葉山エリアでは本施設の整備予定地を含むエリーアー帯を活用した大規模学会が開催されてきた実績があることから、同等規模の学会の開催時には本施設も会場の一部として活用されることも想定しております。講演のみならず多様な舞台芸術に対応する転換型ホールとして、残響時間は可変とする想定であり、音響設計会社の専門的知見のもと各般の利用目的に対し適切な音響環境を実現してまいります。</p>	令和8年1月16日
24	<ul style="list-style-type: none"> ・複合施設整備に向けた財源調達内訳を明示するほか、整備費の具体的な支払いのタイミングと支出額、市全体の歳出に占める割合を示してほしい。 ・経済波及効果を年間47億円とした試算の具体的な内訳と裏付けを公開してほしい。 ・藤本壮介氏の設計が持つ独自性や未来への価値を、市が発注者として自信を持って擁護し、声なき応援者の期待を裏切らないよう、引き続き強いリーダーシップを發揮してほしい。 ・多くの市民が利用する想定」とのことだが、その具体的な根拠となる年間利用者数の目標や、市民全体会員(約109万人)のうち何割の市民が何らかの形で施設を利用できる見込みか示してほしい。 ・施設のポテンシャルを最大限に引き出すための運用体制や指定管理者の業務仕様を検討し、指定管理者の評価基準を明確にしてほしい。 ・市民が多様な方法で施設を使おうとする斬新なアイディアを、形式的なルールで妨げることのないよう、設計者と発注者が一体となって柔軟性と創造性のある施設運用のあり方を検討してほしい。 ・せっかく実現するのであれば、消極的で無難な施設ではなく、「仙台市やるな！すごい！」と内外から羨望の目で見られるような、未来を象徴する施設になることを心から願っている。市民が自信をもって計画を応援できるよう、透明性のある情報開示をお願いしたい。完成を楽しみにしている。 	<p>施設整備費については、関連経費を含めた額や財源について精査を進め、整備の各段階においてお示してまいります。また、市全体の財政状況につきましては、年2回、中期財政見通しをお示しするなどの取組を行っているところでございます。</p> <p>経済波及効果については、「施設の運営や事業展開により誘発される生産額とそれに伴う波及効果」で21億円強、「来場者の消費により誘発される生産額とそれに伴う波及効果」で約25億円強の合計で約47億円と推計しました。</p> <p>前者については、他都市の類似施設を参考に運営・事業費を約18億円/年と想定し、宮城県産業連関表を用いて県内における効果額を算定しております。後者については、大ホール・小ホール・震災メモリアル拠点といった諸室ごとに想定来場者数を試算し、利用目的別の1人当たり消費額を積和したうえで、前者と同じく宮城県産業連関表を用いて県内における効果額を算定しております。これにとどまらない効果を目指すとともに、教育や福祉、防災など、仙台のまちづくりの様々な面において大きな社会的効果を発揮するものと考えており、開館後も含め、こうした経済的效果・社会的効果の可視化に努めてまいります。</p> <p>来場者数見込は合計で約54万人であり、オーケストラ鑑賞会や災害文化の展示の見学などで市内全域の児童生徒が来場することを見込むほか、障害のある方、高齢の方など、あらゆる人に文化体験の機会を提供するプログラムを開催するなど、多くの市民の方々が来場する施設運営を目指してまいります。</p> <p>本施設は、文化芸術と災害文化が交わり仙台ならではの文化を創造・発信する世界に類のない施設を目指しております。その運営に際しては、市との密接な対話・連携のもと、施設単体にとどまらない面的な広がりや政策と連動した事業展開が求められるものと考えております。こうした視点を踏まえ、適切な指定管理者を選定するとともに、業務の仕様、評価指標の検討を進めてまいります。社の都の新たなシンボルとして国内外から多くの人を惹きつけ、仙台のまちをより豊かにする拠点とすべく、整備の必要性やこの施設がもたらす価値についてより一層の情報発信に努めながら、着実に整備を進めてまいりたいと存じます。</p>	令和8年1月16日

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

- 令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。
- 令和8年1月5日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後随時更新いたします。

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
25	<p>・ホールの多目的化はどうしても帶に短し襟に長しになってしまい、音響的に良い影響を与えないと思う。出来たら純粋な音楽ホールとして世界に自慢できるホールを作ってほしい。</p> <p>・音楽ホールにパイプオルガンは必須。近現代の大規模な管弦楽曲ではパイプオルガンが使われる曲が多数ある。何十年か越しのホールが出来るのであれば、完全なホールを創ってほしい。</p>	<p>本市施設の大ホールは、多様な公演のニーズ、市民の皆様の多方面からのご要望に最大限対応すべく、転換型の2,000席規模のホールとしたところでございます。このため、パイプオルガンの設置は予定しないところでございますが、生の音源に対する優れた音響性能を持ち、高く評価されるホールの実現を目指してまいります。</p> <p>既存の施設の中にも、音響性能が高く評価される転換型ホールが全国に多数ございます。本施設では、世界的な実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、音響反射板の重量をはじめとして、音響性能確保のために考慮すべき点を取りまとめた「音響ガイドライン」を定めております。設計プロセスにも上記音響設計会社や劇場に関する多数の専門家が参画しており、その知見を十分に生かしながら整備を進めてまいります。</p>	令和8年 1月16日
26	音楽ホールは不要。何で音楽ホールが必要なのか伝わってこない。インスタグラムにやる気が感じられない。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より一層の情報発信に努めてまいります。	令和8年 1月16日
27	<p>・施設整備に係る費用の財源を確保できないのであれば整備計画を凍結すべき。</p> <p>・宮城県のローコストアリーナ建設構想にのっかり、収容1万人規模の複合施設内に音楽型重視ホールを併設するように計画を見直したほうが良いのではないか。</p> <p>・マルシェやワークショップは並行して大改造する西公園内でやれば良いのではないか。マルシェやワークショップは不要ではないか。災害文化の展示も、震災遺構の荒浜小やせんたい3.11メモリアル交流館があり、過剰整備だと思う。音楽ホールに必要なバースに特化した再デザインが必要。</p> <p>・ボーリング調査結果に係る調査報告書を公開しないのはなぜか。整備予定地の川内地区は水はけの悪い場所だが、そんな土地に免震構造の建物を作つて地盤沈下等のリスクはないか。</p> <p>・市民説明会の質疑応答で発言した人には回答して、オンラインでの質問者には回答しないのは市民サービスの差別に繋がるのではないか。</p>	<p>「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律(劇場法)」におきましては、「劇場、音楽堂等は、人々の共感と参加を得ることにより『新しい広場』として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている。」という考え方が示されております。</p> <p>多様な目的を持った人々の出会いと交流を促進する吹き抜け空間や、マルシェやワークショップなどの取り組みは、上記の考え方を基とする本施設において、重要な役割を担うものと考えております。</p> <p>また、震災メモリアル拠点については、平成26年に仙台市震災復興メモリアル事業等検討委員会からの提言を受け、「津波被害を受けた沿岸部の拠点と、人や情報が集まる中心部の拠点が連携し、震災の経験と教訓を継承する」との方針を定めました。沿岸部の拠点として、せんたい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校を先行して整備し、中心部の拠点は、震災復興の過程で音楽をはじめとする文化芸術の力が再認識されたこと、また、災害から立ち上がる文化を定着させ内外に広める拠点の必要性から、本市の復興のシンボルとして音楽ホールと複合整備することを決定したものです。</p> <p>仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設として、事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら、整備を進めてまいります。</p> <p>なお、宮城県が検討を進めている「ローコストアリーナ」につきましては、アーティストの公演や大規模イベント等を担う施設として、本施設とは異なる役割を果たすものと認識しております。本施設と県の施設がそれぞれの特性を生かしながら、相互に補完し合い、仙台圏全体にぎわい創出や交流人口の拡大につなげることが重要だと考えており、合築による計画見直しは想定しておりませんが、宮城県とは今後とも連携を図ってまいります。</p> <p>令和5年度に実施したボーリング調査報告書につきましては、技術的な情報が多いため基本計画には添付しなかったところでございます。</p> <p>地盤の硬軟や締り具合の程度は、土質ボーリング柱状図(標準貫入試験)のN値で判定されます。N値が低い場合は、地盤が軟らかく不安定であることを示し、補強工事や地盤改良が必要になる可能性があります。逆にN値が高い場合は地盤が安定しており、建物の重量をしっかりと支えられることを示します。</p> <p>本事業地の西側では地下3m程度でN値が50を超えており、大型建物の建造に耐えられる非常に堅固な地盤と判断されました。</p> <p>ご指摘のとおり、当該地区は地下水位が高い地区ですが、地下水は堅固な地盤より高い位置で観測されておりますので将来の地盤沈下等のリスクは生じないものと判断しております。</p> <p>市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきまして、このように市の考え方を回答させていただきました。</p>	令和8年 1月16日
28	<p>一番気になっているのは運営体制である。</p> <p>災害文化は、さまざまな地域における災害によって対策や考慮しなければならない点が常にアップデートしていくという実感がある。「常に対話し続けることができる施設」ということが重要であり、「ルールやマニュアルが本当にこれで良いのか?」ということを常に考え直し、アップデートしていくという姿勢が必要だと思う。その良い例として、秋田市文化創造館の取り組みに注目している。</p> <p>市民と共に公共施設はどうあるべきかを考える姿勢を持ち、次に必ず来る災害に対するスキルを市民とともに作り上げていけると良い。凝り固まった施設ではなく、柔軟にどのようなカタチにも変化していくれる施設になることを望む。</p>	<p>災害文化の創造を行うためには、災害情報の更新はもとより、多様な方々との対話による気づきや学びを通じ、取り組み自体も不断に更新していくことが重要であると考えています。</p> <p>地域の多様な人材と協働した事業展開を図るとともに、柔軟な施設運営のもと市民の皆様のアイデアから生まれる多様なプロジェクトを後押ししていくよう、他都市の先進事例を参考にするとともに、運営のあり方の検討の段階から市民の皆様に参画いただけますような取り組みを、今後とも行ってまいります。</p>	令和8年 1月16日
29	吹奏楽関係者にとって待望の音楽ホールだ。コンクールを開催する際の楽器搬出入の配慮がなされていること、コンクール特有の演奏者と楽器の動線がしっかりと確保されていることは素晴らしい。仙台に世界に誇れる音楽ホールが完成し利用できるようになることを念願している。	市民の皆様から愛されるとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指し、整備を進めてまいります。	
30	ホール建設に賛成。		
31	2000席規模で良い音響設備を備えるホールがないことが仙台市の文化活動の発展、音楽文化の醸成にフレークをかけている。国内外の一流演奏家の演奏機会の増加や各種コンクール・コンテスト開催のため、宮城県内外から広く集客するためにも、十分なキャパシティのホールが必要で、ぜひ整備を実現してほしい。		令和8年 1月16日
32	東北各地に素晴らしいホールがある中で、政令指定都市の仙台にだけないのでとても寂しく感じている。胸を張って楽都仙台と言えるためにも計画を推進し、早期に立派なホールができることを願っている。		

(仮称)国際センター駅北地区複合施設(音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点)に関するご意見および仙台市の考え方

●令和7年11月18日に基本設計(中間案)を公表した以降に、仙台市ホームページ上の意見募集フォーム等に寄せられたご意見とそれに対する市の考え方を掲載しています。

●令和8年1月5日までにお寄せいただいたご意見を掲載しており、今後隨時更新いたします。

No.	ご意見の概要	市の考え方	回答日
33	市民説明会ではクラシック音楽を愛好している方からバイオオルガンの要望や1500席が良いとの意見があつたが、こだわりの極致かと思う。自身としては、エスカレーターの設置と、女性用のトイレを男性の10倍くらい多く設置することを望む。意外と客客来客も。弱者救済宜しくお願ひしたい。	施設各所にエスカレーター・エレベーターを設けるとともに、ホール来場者用のトイレは、女性用が特に混雑することを前提に十分な数を備えるなど、あらゆる人が気軽に訪れ、快適に利用できる施設を目指してまいります。	令和8年1月16日
34	自分自身が吹奏樂をしていることから、演奏できる場所が増えるのはとても嬉しいと思うし、ぜひ完成させてほしい。また、震災が起こった際の避難場所として活躍してほしい。	市民の皆様から愛されるとともに、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指し、整備を進めてまいります。 なお、本施設は、災害発生時の避難所等の直接的な役割を担うものではありませんが、免震構造の採用によって高い安全性が期待できる施設であり、帰宅困難者の一時的な受け入れなどの役割を果たせるものと考えております。また、平常時においては、震災の経験と教訓に基づく災害文化の創造を通して、災害に備え、災害から立ち上がる力を広める施設を目指してまいります。	令和8年1月16日
35	日常を忘れて心穏やかに過ごせるような、大きくてキレイな施設になってほしい。また、演奏で人が集まり、耳を傾け、交流できる場をつくってほしい。	市民の皆様が日常的に集い、交流することのできる施設を目指し、着実に整備を進めてまいります。	令和8年1月16日
36	・県内のホールは声楽や演劇向けに作ったようなホールばかりであるため、吹奏樂や管弦楽、オーケストラにとって音響の良いホールが必要。市民のみならず、県内や東北の各地からも愛されて利用されるホールにしてほしい。 ・駐車場の確保、楽器荷下ろしなどがスムーズに行えるスペース、日立システムズホールのパフォーマンス広場のような場所も設けてほしい。また使いやすい利用料金の設定にしてほしい。	本施設の整備にあたっては、世界的に実績を持つ音響設計会社に音響コンサルティング業務を委託し、優れた音響性能となるホールとなるよう進めているところであり、国内外から多くの人を惹きつける施設を目指してまいります。 日立システムズホール仙台のパフォーマンス広場とは異なる空間とはなりますが、誰もが気軽に訪れる様々な催事やプロジェクトなどが展開される「交流イベントロビー」を設ける計画でございます。駐車場につきましては、敷地の広さや地下鉄駅隣接であることでも踏まえ一般用駐車場の駐車台数は90台となっておりますが、楽器荷下ろしの利便性などには十分に考慮してまいります。使用料の設定につきましては経営的視点とともに、多くの市民の皆様にご利用いただき、本市の文化芸術環境を向上させるという視点も持ち、検討を行ってまいります。	令和8年1月16日
37	整備費が高すぎる。建設に反対。市民からの意見に個別回答をしないのであれば、どんな意見があったのかまとめたうえで、公に回答すべき。市民に対して不誠実だ。	本施設は、多様な社会的価値の創出を通じて将来世代も含めた市民の皆様に豊かさをもたらすとともに、国内外から多くの人を惹きつける、仙台のまちづくり・ひとづくりに必要な施設であると考えております。 事業費を精査するとともに、企業版ふるさと納税や実質的な本市の負担の軽減が図られる市債を活用するなど、財源の確保にも取り組み、将来にわたる財政運営の健全性を確保しながら整備を進めてまいります。	
38	複合施設は不要。複合施設が必要なのか、市は市民に対する説明を怠っている。 市民から質問を募って、回答をホームページに公表することもできるはず。市との他の施策では行われていることが複合施設ではなぜしないのか。市民の意見に真摯に対応してほしい。	市民の皆様からのご意見につきましては、基本構想・基本計画それぞれの策定過程においてパブリックコメントを実施してまいりました。今後につきましては、ご意見を伺う多様な機会を設けてまいりたいと考えております。市ホームページ上の意見募集フォームに寄せられたご意見につきましては、随時、市の考え方を回答するとともに、整備の必要性やこの施設がもたらす価値について、より一層の情報発信に努めてまいります。	令和8年1月16日
39	40年来の悲願であった新ホールが建設されることになり、嬉しく思う。世の中では2000人規模の新ホールが完成し、著名な演奏家のコンサートが仙台を素通りしてしまったような状況を悔しく思う。ここまで進んできて凍結してしまった場合、今後復活することは不可能であろう。 このホールは子供たちにとっても欠かせないものになる。吹奏樂も合唱も全国大会誇致が子どもたちの大きな刺激になり、技術が向上するし心も育つ。長期的視点に立って考えた場合、仙台という街づくりにも豊かな人間育成にも大きく寄与できる場所になると確信している。中断せずに前に進めてほしい。	「楽都仙台」としての本市の文化芸術をさらに発展させるとともに、未来を担う子どもたちや若い世代の育成に貢献し、本市の魅力を一層高めるまちづくり・ひとづくりの拠点を目指し、整備を進めてまいります。	令和8年1月16日
40	ホールが出来ることは喜ばしいが、費用がかかりすぎである。音響には力を入れてほしいが、外観は四角なビル型でも構わない。奇抜なデザインはいらない。建設後も維持費や修繕費が余計にかかるような建物にしてほしい。	本施設は、文化芸術と災害文化の複合施設として、多様な目的を持った人々や活動が交わり、共鳴する中から仙台ならではの新たな文化が創造されていく拠点を目指しており、そうした理念を実現する空間としてこのような設計案となっております。また、施設の外観については、屋根を分節することで、周辺への圧迫感を低減し、青葉山エリアの景観との調和を図られるようにしております。 利用者にとっての使いやすさや維持管理コスト、メンテナンス性も十分考慮しながら、設計を進めてまいります。	令和8年1月16日